

資料4

## 農業等人間活動との両立について

関東地方環境事務所

### 課題

- 個体数の増加
- 新たな集団ねぐらの形成 等



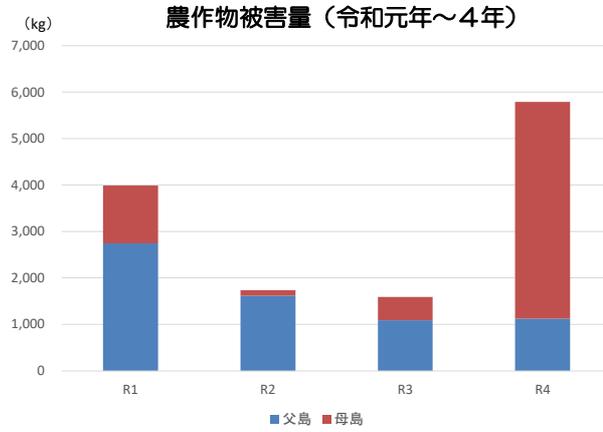
人間活動との軋轢が顕在化

- 農業被害の増加
- 生活環境への影響
- 傷病個体（事故）の増加 等

➤ 軋轢（被害）や事故の防止・軽減に向けた取組についてご意見をいただきたい。

2

## 農作物被害状況

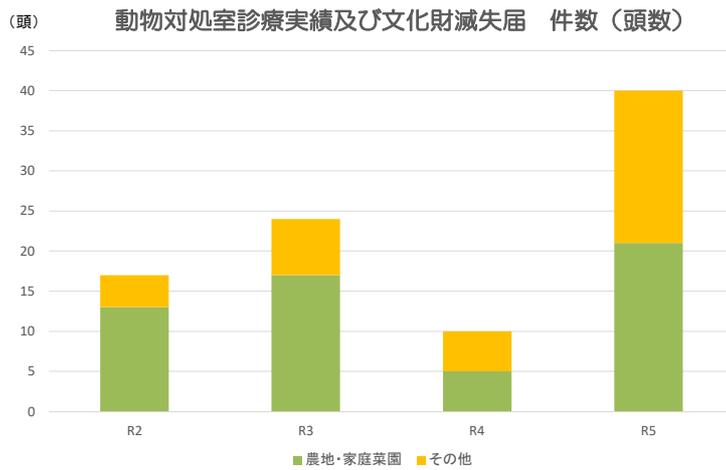


被害作物はレモン、パッションフルーツ、カンキツ、コーヒー、バナナ、マンゴー、レイン等

引用：R2～R5年度オガサワラオオコウモリ保護増殖事業検討会資料

3

## 傷病個体の発生件数

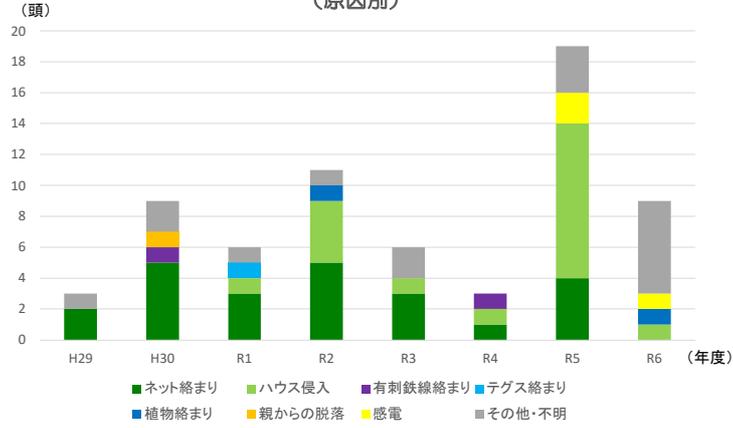


引用：R2～R6年度オガサワラオオコウモリ保護増殖事業検討会資料

4

## 傷病個体の発生原因

動物対処室における診療実績 H29～R6/12月  
(原因別)



引用: R6年度オガサワラオオコウモリ保護増殖事業検討会 資料3

5

## 農地での救護事例

ハウス侵入(2024/9/23) 少しのすき間からでも侵入する



天面の隙間

引用: 緊急捕獲通知(東京都)

6

## 安全な被害防除施設については一定の技術が確立

(参考)母島の施設(2024年10月)



7

## 集落での救護事例 1

ネズミ捕獲用粘着剤付着(2024/6/4)



保護直前 両翼がくっついて離れない

衰弱(2024/6/8)



採食に来て衝突したと考えられる。

引用:緊急捕獲通知(東京都)

8

## 集落での救護事例 2

幼獣が親から脱落 (2024/7/17)



採食に来た親から脱落したと考えられる。  
写真はNPOによって再設置されたネット。

建物迷い込み (2024/8/4)



採食に来て誤って迷い込んだと考えられる。

引用:緊急捕獲通知(東京都)

9

## 検討課題

### ◎農地等へ来ないようにできないか？

- ・農業用施設（ハウス）での対策は進展中であるが、防除対策が未実施の農地もまだ多く残されている。
  - ・植栽地が餌場として機能するまでには時間を要する。
- 巡視や追い払い等の対策も行われているが、そもそも農地や家庭菜園等への飛来を防止する方法（忌避技術等）はないか？

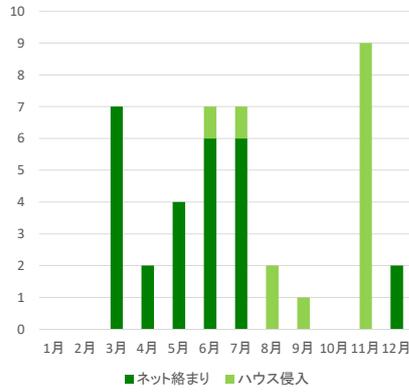
### ◎効果的な被害防除、事故予防に向けて必要な情報は？

- ・母島での行動等の情報は、父島と比較してデータが少ない。  
特に母島での冬季のGPS調査は2個体のみ
- ※ 関連するこれまでの調査結果の概要は次ページ以降

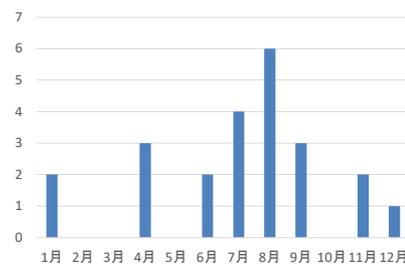
10

## いつ事故に遭うのか? ～傷病個体の発生時期～

動物対処室における診療実績  
(月別：農業関係)

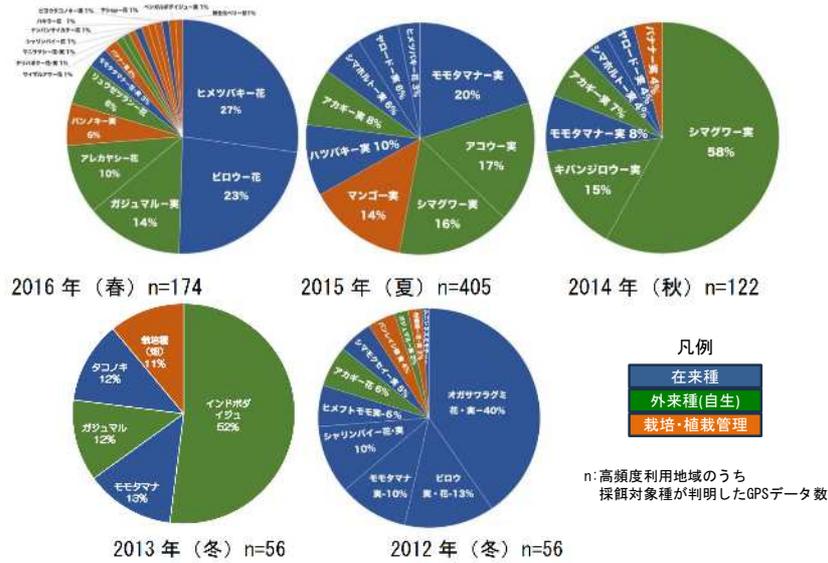


動物対処室における診療実績  
(月別：その他)



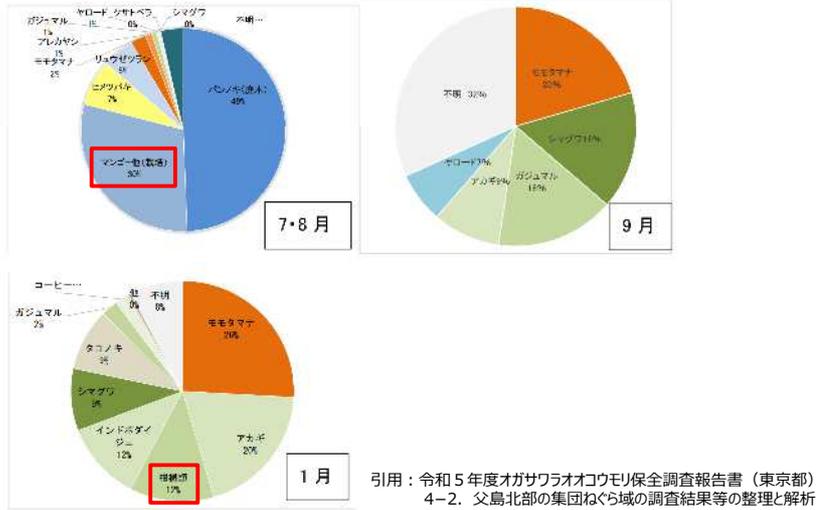
引用：R6年度オガサワラオオコウモリ保護増殖事業検討会 資料3

## 何を食べているのか? ～利用樹種（父島）～



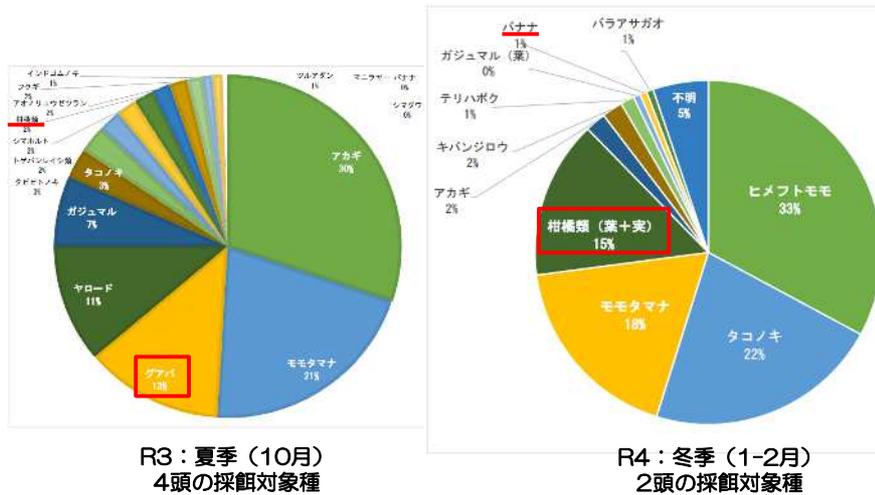
引用：令和3年度オガサワラオオコウモリ保全調査報告書(東京都)  
3. オガサワラオオコウモリ保全のための植生回復方法の検討

～採餌対象（父島北部ねぐら利用個体）～



13

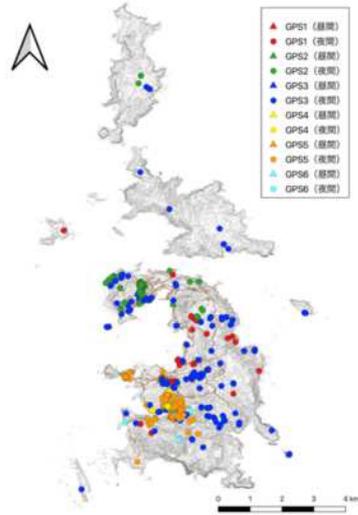
～採餌対象（母島）～



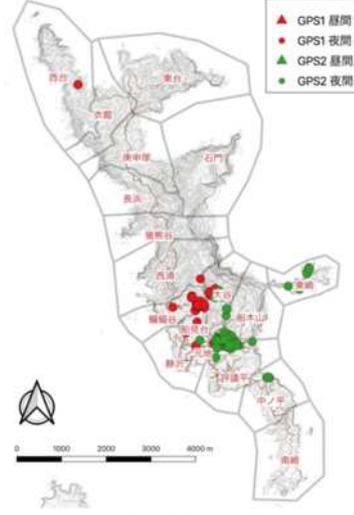
引用：R1～R4年度 国内希少野生動物植物種（オガサワラオコウモリ）保護増殖事業調査報告書（環境省）

14

# どこで食べているのか? ~行動圏~



R5: 夏季 (7-8月)



R4: 冬季 (1-2月)

引用: (父島) 令和5年度オガサワラオコウモリ保全調査報告書 (東京都)  
(母島) R4年度 国内希少野生動物植種(オガサワラオコウモリ)保護増殖事業調査報告書(環境省)